



Community-University Partnership

域学共生

- 大学が地域を変える 地域が大学を変える -

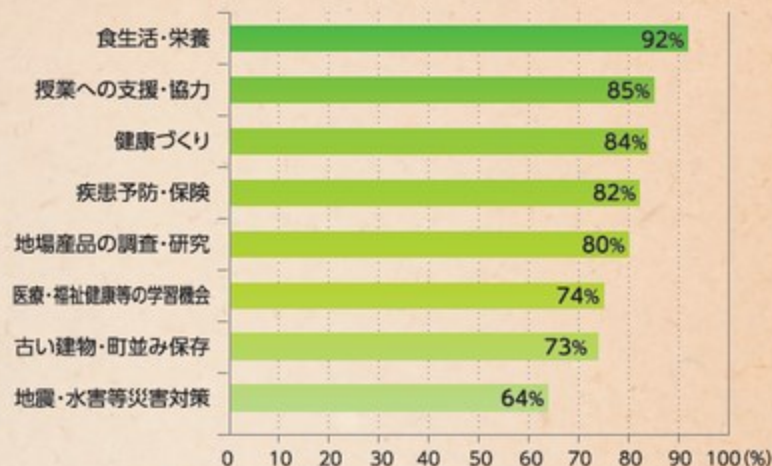
 高知県立大学

「課題先進県」から「課題解決先進県」へ

全国と比較して、高齢化で10年、人口減少で15年先行している高知県。少子高齢社会や南海トラフ地震対策など山積する課題を乗り越えて、未来の社会をどう形成するかに、本学の学生と教職員も真剣に取り組んでいます。

少子高齢化・人口減少・後継者不足
南海トラフ地震対策・女性の活躍の場の促進
地方経済の活性化・教育の充実・買い物難民
中山間地域の再生・活性化

高知県立大学と連携したい主な地域課題：期待度順
健康づくり、まちづくりに関わる課題に取り組んでほしいという要望が上位にあります。



地域と大学の新たな関係ー域学共生という考え方

高知県立大学にできることは…?

高知県立大学は2015年度から「域学共生ー大学が地域を変える。地域が大学を変える」という理念を掲げました。地域と大学が互いに手を携え、教え合い、学び合い、育ち合いながら、高知県の地域の再生と活性化を実現したいという想いを込めた新しい理念が「域学共生」であり、地域と大学が共に生きていくという考え方です。本学はこの理念のもと、全学の学生が地域に入って社会の人々とともに学び合う教育を取り入れています。

高知県立大学

- 域学共生科目(全学必修)
地域の課題解決や活性化に向けた取り組みについて、キャンパスと現地で学びます。
- 立志社中
- CSL(コミュニティ・サービス・ラーニング)※ サポートデスク
- 地域課題研究部会

※CSL = コミュニティ・サービス・ラーニング / 大学で得た専門的な知識・技能を、地域社会の中で実際に活用することで、市民的責任や社会的役割を感じ取ってもらうことを目的とした教育方法。高知県立大学では2016年から導入しています。

域学共生 連携会議

- 連携
推進会議
- ご意見番
会議

地域団体

- 集落活動センター ※
- あったかふれあいセンター ※
- 高知医療センター
- 自主防災組織
- 地域包括支援センター
- 社会福祉協議会
- NPO団体 …

※集落活動センター / 住民が主体となって、高知県独自の「小さな拠点」を作る取り組み。地域外からの人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動に総合的に取り組む仕組みです。

※あったかふれあいセンター / 地域に密着した福祉サービスの拠点。各市町村の実情に応じて、既存の施設などを活用して整備しています。高知県独自の取り組み。

自治体

● 高知県

● 包括連携自治体

高知市・安芸市
香美市・土佐市
佐川町・津野町
三原村

高知県立大学ではすべての学生が地域で学び、地域で活動しています。

高知県立大学の域学共生に基づく教育カリキュラム

01 高知県立大学では、全学部の学生を対象に「地域学概論」「地域学実習Ⅰ」「地域学実習Ⅱ」を必修科目としています。目指しているのは、地域の課題に関心を持ち、積極的に参画する意欲と能力を有する人材を育成すること。すべての学生が地域の課題解決や活性化に向けた取り組みを学びます。

02 まず学生全員が初年次に「地域学概論」を履修。地域課題を学ぶ意義や具体的な地域課題、地域活性化の取り組みの事例などを学習します。続いて「地域学実習Ⅰ」では、「地域学概論」での学習成果を生かして、地域の実態と課題を把握す

るための調査・記録活動や地域づくりの活動等に参加。課題解決に向けての考え方や取り組みを、現地で学びます。2年次以降には、「地域学実習Ⅰ」での学びと経験を生かして「地域学実習Ⅱ」を受講します。学生が自らの関心に応じてテーマや実習場所を設定し、地域で実際に課題解決に取り組んでいる人々と協働して活動します。

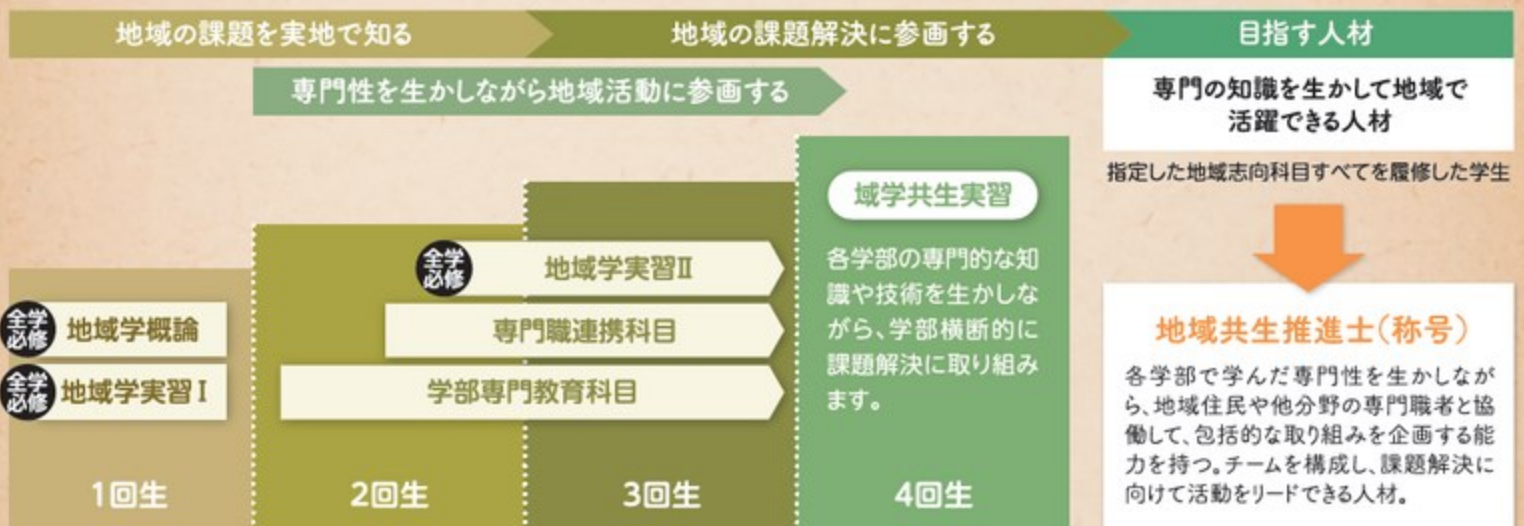
03 これらの必修科目のほか、複数の専門職者がチームとして活動するためのチーム力を養う「専門職連携論」、「チーム形成論」、専門分野の学びの中で地域課題を取り扱う科目を提供しています。また課外活動として、学生提案型の地域

課題解決プロジェクト「立志社中」など、学生が自らの関心をもって主体的に活動する機会が数多く設けられています。4年次には、地域に関する学びと専門分野の学びを総合して実践する「域学共生実習」で課題解決のための取り組みに参画します。

04 以上のカリキュラムにおいて、指定された科目の単位を修得した学生には、卒業時に高知県立大学独自の称号「地域共生推進士」を授与します。「地域共生推進士」は、地域課題に取り組むための知識と実践を学び、専門職として地域課題の解決能力を持った証となる称号です。

学部横断型教育カリキュラム

文化、看護、社会福祉、健康栄養の4学部すべての学生が地域の課題を知り、地域の再生や活性化に向けた取り組みを学びます。それぞれの専門的な知識や技術を生かして、地域活動に参画します。



地域学を学ぶ意義とは？

地域には、様々な文化や自然があります。そして、それらをもとにした、地域固有の発展があります。このような考え方に基けば、「地域学」とは、地域の資源を学際的に分析し、地域独自の発展を考える学問であるといえます。



本講義では、「高知県」を分析対象に、「地域学」の学問的特性を実感することを目的としています。高知県には、どのような資源があるのか。課題は何か。そして、課題解決のために、資源は活かされるのか。様々な分野の研究者や実践者からお話を聞きながら、考えていきます。



「地域学概論」科目担当
宇都宮 千穂
文化学部准教授

「地域学概論」は、全学部の1回生を対象とした講義科目です。この科目の特徴は、地域づくりの現場で活躍する方が講義をくださることです。全15回の講義は、研究者、公務員、NPO職員、企業の方、学生や卒業生など、多彩なゲスト講師によって構成されています。講義内容も、祭りなどの地域文化、地域福祉、地元食材を使った商品開発など幅広く、地域を現場に即して理解できるようになっています。

開講2年目を迎えた地域学概論では、講義に加えて“地域づくりワークショップ”を取り入れています。ここでは、学生自ら地域づくりを考え、学生同士で議論することで、講義で得た知識を自分のものにするをめざしています。議論のなかでは、様々な意見のやりとりをします。お互いの意見の違いに驚くこともよくあります。しかし、地域に出れば、もっと驚くことがたくさんあります。地域を学ぶとは、自らの価値観を問い直すことでもあります。「地域学概論」では、大学でしかできない学びを提供できればと考えています。

地域の課題を肌で知るために。

「地域学概論」での学びを基礎に、実際に地域におもむいて体験活動、調査・記録活動などを行います。実習を通して、地域固有の価値を発見し、実際に直面している諸問題を理解することを目的としています。地域課題に取り組むことが、市民として生きる上でどのような意味・意義を持つのか考察します。



[地域学実習Ⅱ] 2～3回生 必修

学生自らが考え・動きはじめます。

学生自らが、他の学生や専門職者、地域住民などと協働して、課題解決に取り組む実習科目です。地域がかかえている問題を発見・分析し、解決のために自主的に計画・実践していきます。

学生自身の自主的な地域活動の実施を通じて、実践におけるPDCAサイクルのPDC(Plan-Do-Check)を学びます。



「地域学実習Ⅱ」科目代表
一色 健司
地域教育研究センター教授

本学の地域学実習の特徴は、地域の課題を把握し解決策を考えるという課題解決型を指向した実習を全学必修としたところにあります。

初年次に履修する地域学実習Ⅰは、課題解決型を指向した地域活動を経験することによって、今後の各自の大学での学びが何のためのものか、誰のためのものかを考え、自覚してもらうことが狙いです。実習後に提出される小論文には、地域課題への向き合い方、自分の住んでいる地域との関わり方、今後の学びに対する目的意識に、実習前後で大きな変容があったことが如実に表れています。

2または3年次に履修する地域学実習Ⅱでは、個人あるいは数人程度のグループで、地域課題を自ら発見して解決のための目標を立てて計画を立案し、地域活動を実施し、達成度を自己評価します。実施した地域活動の成果の大きさには差がありますが、報告書に記載された達成度評価を読むと、課題解決のための実践力が着実に身につけていることが実感できます。

専門職連携科目/ 専門職連携論&チーム形成論

選択

専門職者がチーム力を発揮するためのスキル。

多分野の専門職者が連携してチーム力を発揮して地域課題に取り組むには、他者とのコミュニケーション能力が不可欠です。

看護・社会福祉・健康栄養・文化の4学部がそろった高知県立大学ならではのIPE [Inter-professional education] = 専門職連携教育を実施しています。

専門の知識や技術を持つ者同士が、連携して課題解決にあたるための「専門職連携論」。他者とのコミュニケーション能力と、チーム形成力を養う「チーム形成論」。これらの授業では、講義のほかにグループ討議・発表を行い、実際にチームで連携することを体験的に学びます。



[地域学共生実習] 4回生 選択

地域課題解決のための実践への参加。

大学や大学の教職員が取り組んでいる地域課題に対する研究・実践活動に、チームの一員として参加することを通して、実践的な問題解決能力を身につける実習です。

複数の学部の学生が、共通教養教育科目の履修を通しての地域課題・地域活動に関する学びと実践、それぞれ所属する学部での専門分野での学びと実習の成果を活かして、地域の課題を解決に取り組めます。



「県民大学」の取り組み

立志社中 課外活動

学生 × 地域

広がる学生の地域活動

2013年から、「立志社中」がスタートしました。地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学が支援する教育プログラムです。開始時には6チーム、参加学生102名でしたが、創設4年目となる2016年には10チームとなり、400名を超える学生が高知県内で活動しました。若さにあふれた企画力と行動力で、学生たちは地域の「元気」創生に力を発揮しています。



東洋町民具調査 / from ZERO 東洋町

文化学部の学生11名が「学術調査を通じて地域を活性化すること」をモットーに活動。高知県立大学文化学部・歴史民俗資料館・東洋町の間で三者協定を提携し、文化財保護の視点から民具調査を進めています。



地域共生プロジェクト / かんきもん 安芸市、四万十市、北川村、土佐町、四万十町

社会福祉学部の学生を中心に77名が参加。田植体験、伝統野菜の種植えや収穫、稲刈り体験など1年を通して地域と関わるほか、学習支援、タウンモビリティの取り組みなど地域振興に広く関わっています。



Moving! 高知! ~新聞ばっくでまちづくり~ phase2 / paper's 高知市、香美市、津野町

文化学部の学生7名が参加。新聞紙でつくる「しまんと新聞ばっく」をツールとして、地域活性化をすすめるプロジェクトです。定期的に新聞ばっく作り教室を開催して普及につとめ、環境啓発活動にも力を入れています。



活躍創生総合戦略 ~小さな拠点づくりを目指して~ / 活躍創生実行委員会 香美市、佐川町、津野町

文化学部、社会福祉学部の学生ら41名が参加。高知県中山間地域の活気を取り戻し、住民同士のつながりを再構築することを目的としています。地区運動会などのイベント運営や昔話の聞き取りなど、精力的に活動しています。



Innovation ~世代を超えた創造型地域福祉~ / Pシブラス 安芸市、土佐清水市、奈半利町、本山町、津野町、三原村

社会福祉学部の学生27名がさまざまな地域へ出向いて活動しています。一斉清掃や植樹、地元のお祭り、防災訓練など多くのイベントに参加して地域住民との交流を図り、地域の生活課題の解決に向けた取り組みを続けています。



それいけ大野見エコ米 ~No Rice, No Life~/ COME☆RISH 中土佐町

健康栄養学部の学生58名が参加。中土佐町大野見地区で環境保全に配慮して作られている「大野見エコ米」を通じ、レシピ集を作成したり、朝食料理教室を開催するなどして米食の良さを広め、地域の活性化を図っています。



池地域まるごとサロン活動 / いけいけサロン活動 高知市

池キャンパス周辺を拠点に、看護学部の学生11名が参加。学生と住民が交流を持ち、将来的に住民の健康に貢献することを目的に活動しています。池公民館で七夕会や健康講座を開催するなど地域との関わりを深めています。



健援隊プロジェクト / 健援隊 高知市、梶原町

看護学部の学生58名が参加して、楽しみながら学べる健康教育を行っています。日曜市や地区運動会などでのAED使用啓発活動、よさこい祭りでの熱中症予防活動、僻地医療への取り組みなど、年々活動範囲を広げています。



ボランティア社中 / イケあい地域災害学生ボランティアセンター 高知市、黒潮町

4つの学部にもたがる113名の学生からなるチーム。南海トラフ地震が起こった際に、メンバーが災害ボランティアの一員として動けることを目的としています。地域の防災意識を高める末災地ツアーなど、多彩な取り組みを続けています。



Re:discovery ~高知の魅力~/ 雑誌社中 安芸市

文化学部の学生7名が参加。あまり知られていない高知県内のさまざまな文化を掘り起こして広く知らしめ、後世に残すため、「雑誌」で発信することを目標にしています。安芸市の土佐備長炭工場の取材などを行いました。

高知県立大学と 地域のパートナーシップ



さまざまな取り組みを行っています

[域学共生連携会議]

高知県との取り組み

高知県と本学は、域学共生事業の事業計画について協議するため、年に1回程度会議の場を設けています。2016年度には、高知県文化生活部、健康政策部、地域福祉部、産業振興推進部、観光振興部などの幹部職員と、本学の地域教育研究センター長、健康長寿センター長、域学共生コーディネーターほか担当者が膝を交えて情報交換と協議を行いました。



[連携推進会議]

市町村との取り組み

本学が包括連携協定を結んでいる7つの市町村（高知市、安芸市、香美市、土佐市、佐川町、津野町、三原村）と域学共生事業の推進について協議するための会議を開いています。各市町村の実務担当者や地域教育研究センター長、健康長寿センター長、域学共生コーディネーターらが一堂に集い、情報共有をしています。



[ご意見番会議]

地域との取り組み

学生が協働したエリアのみなさまからご意見をいただく場として、年2回開催しています。教職員が、集落活動センターなどの地域団体にうかがい、地域のみなさまが実際の活動の中で良かった点や気になった点、成果や今後の取り組みへの期待などのご意見をいただきます。地域と大学が相互にわかりあうために欠かせない機会です。



高知県立大学地域課題研究部会の7人の教員による、地域活性化事業が動き始めています。

佐川町 加茂地区 との協働

地域教育研究センター
地域課題研究部会

人口減少が進む高知県において、「集落活動センター」や「あったかふれあいセンター」という高知県独自の「小さな拠点」を軸とする共生型・内発型地域づくりが進められています。高知県立大学では、2015年から佐川町加茂地区と協働した取り組みを始めました。加茂地区は2015年度から地域活性化計画に着手し、2016年度末には集落活動センター「加茂の里」が完成しました。

現在、地域課題研究部会に所属する4学部の教員が、ワークショップ等を通して住民と一緒に取り組み状況を振り返り、アクションプランの策定・実行に取り組んでいます。





本学は地域に開かれた「県民大学」として、学生・教職員が高知県内の全域へ目を向け、活動しています。地域学実習や立志社中で学生が活動している地域は年々増え、キャンパスのある高知市はもとより、東は東洋町から、西は三原村、土佐清水市まで、2016年現在、21の市町村にのびます。この活動エリアはこれからも広がっていきます。

■ = 地域学実習・立志社中の活動地域

地域学実習 及び立志社中 活動地域

ごあいさつ

2015年度から始まった「地域学実習Ⅰ」は、学生にとっても、地域にとっても、期待以上の成果を上げることができました。2016年度からは「地域学実習Ⅱ」が始まり、学生たちが自主性・主体性を生かした活動を県内各地で展開しています。その中には、ご支援いただいた地域のみなさまにお褒めいただく事例もありました。若い感性のすばらしさに驚き、感動しております。

多くの県民のみなさまのお力添えをいただき、域学共生の理念に基づく活動が充実し発展していることに、厚く御礼申し上げます。

2014年度から本学が掲げている、「域学共生」という地域と大学との連携の新しい理念は、地「域」と大「学」が「共」に「生」きていくという意味で使い始めました。しかし、多くの実績から、現在では、「生」に「生かす」「生み出す」という意味が加わって来ています。学生と協働して活動されている方々は、学生たちの持っている力やアイデアを生かしながら、地域の再生や活性化に取り組まれています。一方で、学生たちは、地域のみなさまの生きた知恵や技から、キャンパス内だけでは学べない多くのことを学んでいます。また、いくつかの地域では、協働によるモノづくりやコトづくりが進み、改めて地域と大学が連携することの重要性を認識しました。

2016年度には、地域教育研究センターにコミュニティ サービス ラーニング サポートデスク(通称:CSLサポートデスク)を設置し、立志社中に加えて、学生たちが課外活動として主体的に地域活動に取り組むための情報提供の窓口を整備しました。

域学共生のさらなる推進に、県民のみなさまのさらなるご協力をお願いいたします。



高知県立大学
地域教育研究センター長

清原 泰治 教授



高知県立大学

地域教育研究センター

〒780-8515 高知市永国寺町2番22号 永国寺キャンパス地域連携棟3階
Tel.088-821-7125 Fax.088-821-7126 Mail. aeru@cc.u-kochi.ac.jp

<http://www.u-kochi.ac.jp/>